

平成27年度 学校自己評価のまとめ

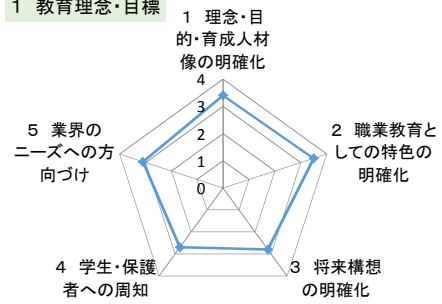
H28. 2. 10

回収総数17名(職員5名 子ども環境科6名 介護環境科6名) その他1名

1 教育理念・目標

		4	3	2	1	領域平均	総平均
学校の理念・目的・育成人材像	職	8	9	0	0	3.4	3.4
	こ介	12	9	0	0	3.5	
職業教育の明確化	職	12	6	0	0	3.6	3.5
	こ介	12	9	0	0	3.5	
学校の将来構想	職	0	12	2	0	2.8	2.8
	こ介	4	9	4	0	2.8	
学生・保護者への周知	職	4	6	4	0	2.8	2.7
	こ介	4	6	6	0	2.7	
業界のニーズに向けての方向づけ	職	4	12	0	0	3.2	3.1
	こ介	12	6	2	0	3.3	
	介	4	9	4	0	2.8	

1 教育理念・目標



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

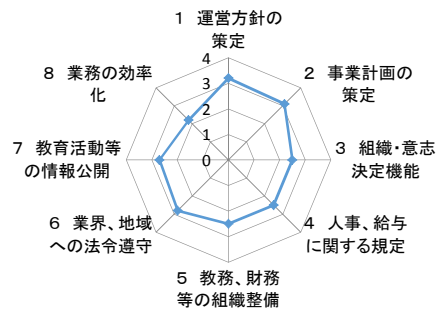
3.1

- ①ホームページを活用し、学校の教育目標をもっと分かりやすい言葉で発信
- ②HPIに経営者や学校長の声を発信しているページを設ける等の取り組み
- ③社会情勢、社会経済の勉強会の開催(新聞記事等の活用)
- ④当学校の特色として幼児教育がメインとなってしまっている。
- ⑤社会全体の背景も踏まえ、今後の介護業界等の動向を見据えながら、将来構想・広報戦略を考えられる(中核となる)人材が必要と思われる。

2 学校運営

		4	3	2	1	領域平均	総平均
目的に沿った運営方針	職	8	9	0	0	3.4	3.2
	こ介	12	6	2	0	3.3	
運営方針に沿った事業計画の策定	職	4	6	4	0	2.8	3.1
	こ介	12	6	2	0	3.3	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	4	3	4	1	2.4	2.5
	こ介	0	9	4	1	2.3	
人事・給与の規定の整備	職	4	3	6	0	2.6	2.5
	こ介	0	9	4	1	2.3	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	0	9	4	0	2.6	2.5
	こ介	4	3	6	1	2.3	
業界・地域社会に対するコンプライアンス整備	職	4	9	2	0	3	2.8
	こ介	4	6	4	1	2.5	
教育活動における情報公開	職	4	6	4	0	2.8	2.7
	こ介	4	6	4	1	2.5	
業務の効率化	職	0	9	4	0	2.6	2.2
	こ介	0	0	6	3	1.5	
	介	4	3	8	0	2.5	

2 学校運営



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

2.7

- ①運営組織や意思決定機能の規則が明確化されることによって改善される
- ②職員として把握していなければならない情報は開示する
- ③学生情報や教育活動の情報について基準を定め開示する
- ④高等普通教育への対応における教職員の意識改善(高専や短大などと同様・同レベル)
- ⑤学校の自己評価に必要な情報は、全職員が共有できることが必要
- ⑥人事に関しては、学科・学校存続にもかかわる重要な部署。本校は、人事担当者がはっきりとしておらず、今後の教職員採用に関しては、人事担当者もしくは総務課長等の人材が必要である。
- ⑦教務について
  - ◎課題 ~ 教務主任が多くを担っているが、奨学金・学生会・クラスTA・突発的な書類の作成など、事務的な仕事も多く、応援体制が必要と思われる。
  - ◎改善策 ~ 理想としては教務事務責任者を置く事が最適と思うが、せめて非常勤講師及び専任講師の時間割編成を、こども・介護の専任教員(各1名)が、協力することでスムーズな授業展開ができるのではないか。

3 教育活動(1) 教育課程

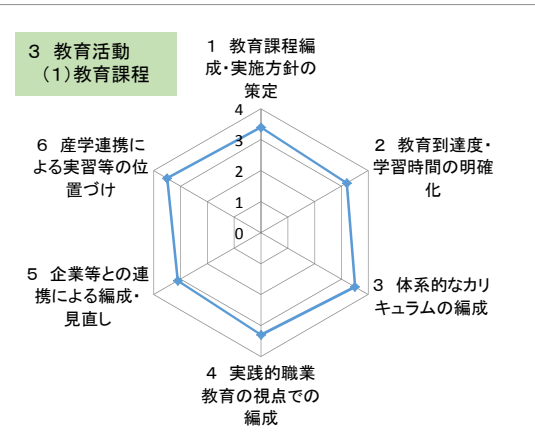
※3.1

	4	3	2	1	領域平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針の策定	職	12	6	0	0	3.6
	こ	12	9	0	0	3.5
	介	4	15	0	0	3.2
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	職	8	9	0	0	3.4
	こ	12	6	2	0	3.3
	介	4	12	2	0	3
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	8	9	0	0	3.4
	こ	8	12	0	0	3.3
	介	16	6	0	0	3.7
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	8	6	2	0	3.2
	こ	12	6	2	0	3.3
	介	8	12	0	0	3.3
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	8	9	0	0	3.4
	こ	12	6	2	0	3.3
	介	4	12	2	0	3
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	8	9	0	0	3.4
	こ	16	6	0	0	3.7
	介	8	12	0	0	3.3

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

3.3

- ①キャリア教育やリカレント教育の実施と継続
- ②学生が2年間にわたって学び(基礎知識を含め)成長していけるようなプログラムの作成

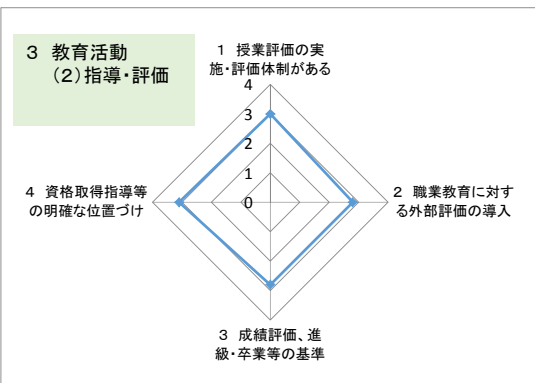


(2) 指導・評価

	4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	職	4	6	2	0	3
	こ	4	12	2	0	3
	介	8	6	4	0	3
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	4	9	0	0	3.3
	こ	4	6	6	0	2.7
	介	0	9	6	0	2.5
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	8	6	0	0	3.5
	こ	0	9	6	0	2.5
	介	4	6	6	0	2.6
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	8	3	2	0	3.3
	こ	8	6	4	0	3
	介	4	15	0	0	3.1

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

2.9

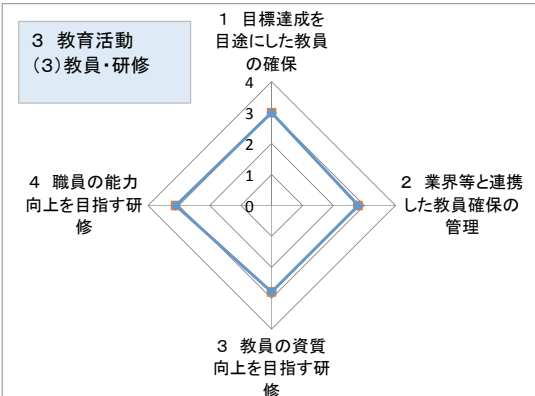


(3) 教員・研修

	4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	8	3	4	0	3
	こ	8	12	0	0	3.3
	介	0	12	4	0	2.7
関連分野の業界などとの連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	4	6	4	0	2.8
	こ	8	9	2	0	3.2
	介	4	12	2	0	3
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	4	9	2	0	3
	こ	12	3	4	0	3.2
	介	0	15	2	0	2.8
職員の能力開発のための研修	職	4	9	0	1	2.8
	こ	4	12	2	0	3
	介	0	15	2	0	2.8

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

3



4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	8	6	2	0	3.2	3.2
	こ	4	15	0	0	3.2	
	介	8	12	0	0	3.3	
資格取得率の向上	職	8	3	4	0	3	2.9
	こ	4	12	2	0	3	
	介	0	15	2	0	2.8	
退学率の軽減	職	4	6	4	0	2.8	2.6
	こ	0	12	4	0	2.7	
	介	0	9	6	0	2.5	
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	職	0	6	6	0	2.4	2.5
	こ	0	9	6	0	2.5	
	介	0	12	4	0	2.7	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	職	0	9	4	0	2.6	2.6
	こ	4	6	6	0	2.7	
	介	0	9	6	0	2.5	

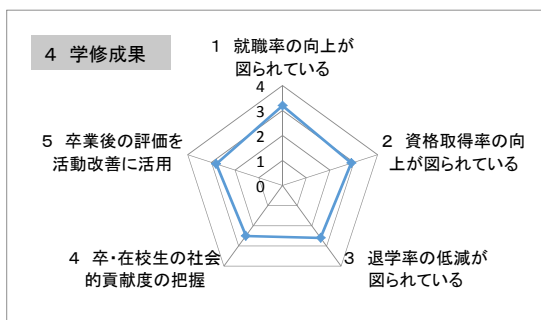
・評価によって表出した課題及び考えられる改善策 2.8

①退学率の低減について

◎課題 ~ 退学理由については、「1、交友関係が構築できない(コミュニケーション、社会性の問題)」、「2、科目履修が難しい(学力の問題)」、「3、学費が払えない(経済的問題)」が多く挙げられる。何かしらの方策を練ることで退学者の低減が図れるのではないかと。

◎改善策 ~ より個に応じた指導体制を確立し、卒業までのきめ細やかな支援をしていく事が肝要である

②毎年退学者が出ているのが現状。一部を除いては、入学試験の際に合否判定で悩んだ学生の退学割合が高いのが現実。入学後の状況把握や指導のあり方について、学校体制をくむ必要がある。



5 学生支援 (1) 支援体制

※3.0

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	12	6	0	0	3.6	3.6
	こ	16	6	0	0	3.7	
	介	12	9	0	0	3.5	
学生相談に関する体制の整備	職	8	6	2	0	3.2	3.2
	こ	16	0	4	0	3.3	
	介	4	12	2	0	3	
学生に対する経済的支援体制の整備	職	0	9	4	0	2.6	2.9
	こ	8	6	4	0	3	
	介	4	12	2	0	3	
学生の健康管理を担う組織体制	職	4	6	4	0	2.8	2.6
	こ	0	6	4	2	2	
	介	8	6	4	0	3	
課外活動に対する支援体制	職	4	9	2	0	3	2.9
	こ	4	9	4	0	2.8	
	介	4	9	4	0	2.8	
学生に生活環境への支援	職	12	0	4	0	3.2	2.8
	こ	0	12	2	1	2.5	
	介	4	6	6	0	2.7	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策 3

①進路や就職支援の整備について

◎課題 ~ 現在、就職委員会が中心となり学生への就職支援を進めているが、学校としての決まったスケジュール(マニュアル)がなく、毎年、委員会で決まったことを試験的に進めていたのが現状と思われる。また、個別指導や特別支援が必要と思われる学生に対しての指導方針が、学校として定まってもいないようにも思われる。

◎改善策 ~ 各クラスの年間スケジュールを確認し、就職ガイダンスの年間計画を立て、クラス毎で就職指導を行うのはどうか。

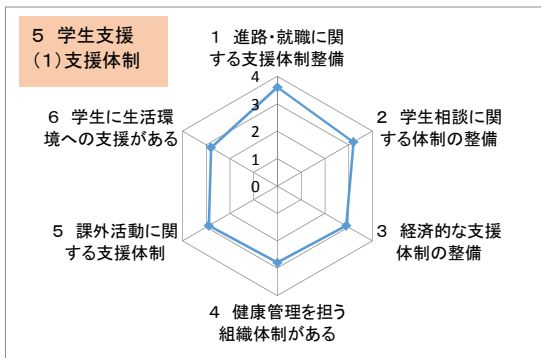
・1年生: 学校にも慣れてきた6月中旬に初回ガイダンスを行い、2年間での就職に向けての全体像や活動時間、成績評価表などの関連性を説明し、個々人の就職準備を促す。年末から年度末にかけては、個人面談を設け就職の方向性を確認していく。

・2年生・専攻科: 年度初めに就職ガイダンスを行い、就職試験の一連の流れ、求人票の詳しい見かた、履歴書の徹底指導など、実習や学校祭で忙しくなる前に、希望の求人がきたら、すぐ受験できるように準備を整えておく。

・特別支援が必要な学生: 日々の出席状況、学習状況、学生間の交流状況、社会的スキルなど具体的な情報を収集し、個々にあった進路を探っていく。

保護者とも早い段階で連絡を取り、できるだけ面談を設ける。その際、現状を報告しながら、社会へ送り出す方策を一緒に考えさせていただきたい旨も伝える。また、場合によっては相談機関の利用も検討の視野に入れる。

②特別な支援が必要な学生が多く、学生支援が教員の個人的な努力に委ねられている向きがある。学生の選考基準や教員の人員配置も含めて、今後の学校としての方向性を検討する必要がある。

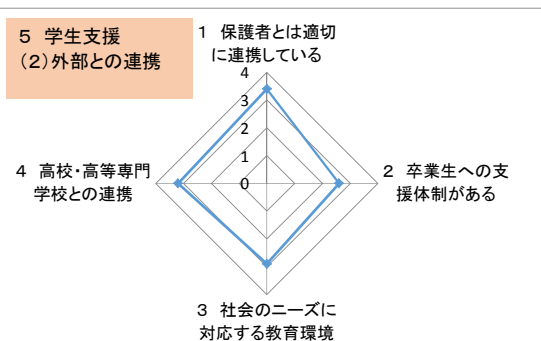


(2) 連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	8	9	0	0	3.4	3.4
	こ	12	9	0	0	3.5	
	介	8	12	0	0	3.3	
卒業生への支援体制	職	0	6	6	0	2.4	2.6
	こ	8	6	4	0	3	
	介	0	6	8	0	2.3	
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	0	9	4	0	2.6	2.9
	こ	12	6	2	0	3.3	
	介	4	6	6	0	2.7	
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	8	6	2	0	3.2	3.2
	こ	12	9	0	0	3.5	
	介	4	12	2	0	3	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策 3

①一般の人が選んで聴講できる仕組みを整える事で、介護に悩む人の役に立つことができる。



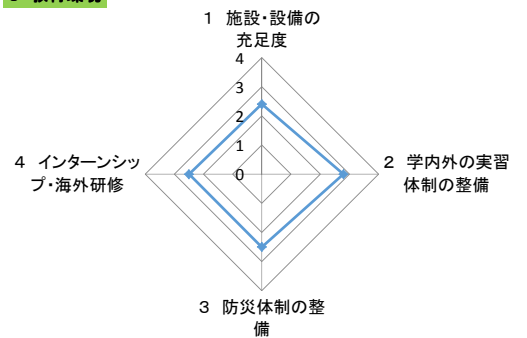
6 教育環境

		4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている。	職	0	6	6	0	2.4	2.4
	こ	4	9	4	0	2.8	
	介	0	3	8	1	2	
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している。	職	8	3	4	0	3	2.6
	こ	4	6	6	0	2.7	
	介	0	6	8	0	2.3	
インターシップ、海外研修等について体制の整備	職	4	6	4	0	2.8	2.5
	こ	4	9	2	1	2.7	
	介	0	6	6	1	2.2	
防災に対する体制の整備	職	0	9	4	0	2.6	2.5
	こ	0	12	4	0	2.7	
	介	0	6	8	0	2.3	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策<sup>①</sup> 2.5

- ①校舎や施設設備の老朽化は、学生募集にも影響がある大きな問題。校舎改築の目的がなければ、内装や暖房設備、学生の健康管理に必要な部屋、休憩のためのスペースの整備等が必要。
- ②防災規定の作成、避難訓練の実施等の基礎的・基本的な事項の整備は済んだが、細部にわたるマニュアルの整備と職員への徹底が必要。また、保育・介護の専門学校として、「あるべき避難訓練の姿」を模索する必要がある。

6 教育環境



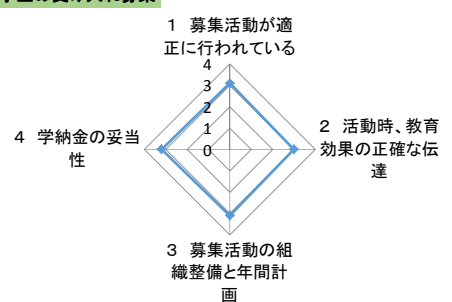
7 学生の受け入れ募集

		4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動が適正に行われている。	職	8	6	2	0	3.2	3.1
	こ	4	12	2	0	3	
	介	8	9	2	0	3.2	
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	職	8	6	2	0	3.2	3
	こ	4	12	2	0	3	
	介	4	9	4	0	2.8	
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	職	8	3	4	0	3	3.1
	こ	8	6	4	0	3	
	介	12	6	2	0	3.3	
学納金が妥当なものになっている。	職	4	12	0	0	2.4	3.2
	こ	8	6	0	1	3	
	介	8	12	0	0	3.3	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策<sup>①</sup> 3.1

- ①学生募集に関しては、体制整備、広報充実、メディアや業者活用等で努力をしているが、超少子化の影響を受けて苦戦を強いられている。特に、介護環境科は、札幌圏からの進出、低廉な通信制学校の出現、施設から高校への直接的な働きかけ等もあって、残念ながら定員を下回る状況が続いている。時代の要請に応え、優秀な介護人材を世に送り出すため、授業評価等による教育方法の改善、本校の特色を追求した授業内容の見直し等々の、社会のニーズに対応した学科改革が必要。

7 学生の受け入れ募集



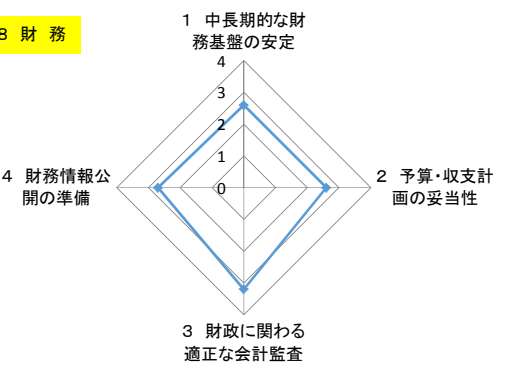
8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	職	0	6	4	0	2.5	2.6
	こ	0	12	2	1	2.5	
	介	0	15	2	0	2.8	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	職	0	9	2	0	2.8	2.6
	こ	0	9	4	1	2.3	
	介	0	15	2	0	2.8	
財政について会計監査が適正に行われている。	職	8	6	0	0	3.5	3.2
	こ	8	6	0	1	3	
	介	8	9	2	0	3.2	
財務情報公開の整備はできている。	職	0	6	2	0	2.7	2.7
	こ	4	12	0	1	2.8	
	介	0	12	4	0	2.7	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策<sup>①</sup> 2.8

- ①財務に関して回答できない職員、曖昧な回答しかできない教員が多いのが現状。また、「不適当」の回答は、「知らされていない」と同義と推察できる。管理者は、年度当初に、理事者が提示した年度計画を元に、学校関係の当年度予算、予定事業等の大まかな見通しを全体に説明する必要がある。

8 財務

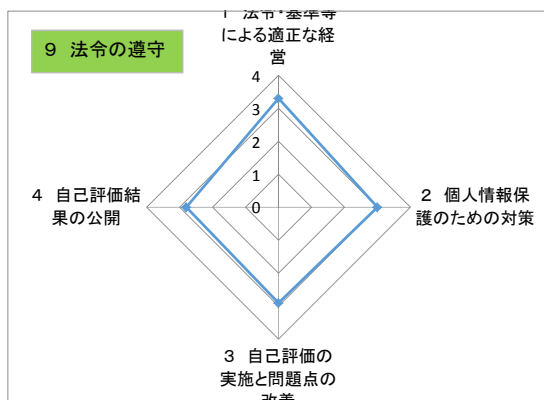


9 法令の遵守

		4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	職	4	9	2	0	3	3.3
	こ	8	12	0	0	3.3	
	介	12	9	0	0	3.5	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	職	8	6	2	0	3.2	3
	こ	4	9	2	1	2.7	
	介	12	3	4	0	3.2	
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	職	4	9	2	0	3	2.9
	こ	8	6	4	0	3	
	介	0	12	4	0	2.7	
自己評価結果の公開	職	0	9	2	1	2.4	2.8
	こ	8	6	2	0	3.2	
	介	4	6	6	0	2.7	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策<sup>3</sup>

- ①耐震基準法変更前の校舎なので、耐震検査と適法な処置を行うことが必要。このことが、学生の本校選択の要素ともなり得る。
- ②監督機関より、「開かれた学校」が望まれている。外部の学校関係者による各種委員会への説明やHPを利用した学校紹介、評価の公開などに耐える経営体制の適正化が急務。
- ③コンプライアンスについての、教職員(非常勤講師・外部講師を含めて)の再認識が必要。



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	職	16	3	0	0	3.8	3.5
	こ	16	6	0	0	3.7	
	介	12	9	0	0	3.1	
学生のボランティア活動を奨励、支援している。	職	12	6	0	0	3.6	3.6
	こ	16	6	0	0	3.7	
	介	16	6	0	0	3.7	
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	職	16	3	0	0	3.8	3.4
	こ	8	9	2	0	3.2	
	介	12	6	2	0	3.3	
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	職	16	3	0	0	3.8	3.7
	こ	20	3	0	0	3.8	
	介	12	9	0	0	3.5	

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策<sup>3.6</sup>

- ①学生ボランティアの需要が多くなってきているが、積極的に応募する学生が少なくなっているのが現状。個別の対応が必要になってきている。

